

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700319		
法人名	空知パブリックメンテナンス株式会社		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	北海道岩見沢市栗沢町最上293番地1 (電話) 0126-45-4110		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年7月23日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】 (平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 11.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	15,000~19,000 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.6 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩見沢市立栗沢病院・町立長沼病院・栗山赤十字病院・三嶋歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市街地を見下ろせる丘陵に位置し、周囲の風景には緑があふれ、利用者にとって落ち着いた生活環境となっている。広大な敷地には、広い畑があり、栽培されている作物が食卓を賑わすとともに、地域で生活する利用者にとって、畑作とふれあいながら、のんびりと生活するという観点からも、非常に重要な要素となっている。運営推進会議において議論された事柄が、地域との交流や事業所運営に幅を持たせる結果となり、内部運営・外部との協働はともに充実してきている。介護に関しての記録は、全職員で意見を交換し、家族や利用者の希望を盛り込んだ介護計画に沿う形で行っている。何よりも、利用者の表情が穏やかな事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営責任者・管理者が率先して、昨年度の評価に対しての課題を明確にし、早急に対応を行い、今年度において改善に至っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営責任者・管理者・職員が、それぞれの視点で評価を行っている。取り組むべき課題を明確にし、サービスの質の向上に向けて努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、運営に関わる討議をしており、地域との交流や、災害時における支援などの意見交換を行っている。その結果として、地域との交流が円滑になる等の成果が現れてきており、今後も引き続き、運営推進会議を軸とした運営の活性化に期待が持てる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情への窓口を明確にした上で、苦情に至らぬように、日常から家族とコミュニケーションをとっている。利用者の日常の生活を「たより」などを通して家族へ伝えるとともに、家族の面会時には意見を聞き取るなど、サービスの質の向上に向けて努力している。
重点項目④	町内会の行事に参加したり、隣接するコンビニエンスストアの店員と顔馴染みになるなど、日常的に地域との交流を行っている。事業所で作成した「たより」や「しんぶん」を、町内会の回覧板で閲覧してもらうなど、地域に対しての啓発活動も活発に行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域において、その人らしく「ありのまま」で生活できるよう理念をつくり、実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所内の随所に掲げており、管理者・職員は、日常的に理念達成を心がけてサービスの提供を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事（新年会、祭事）への参加や、隣接するコンビニエンスストアの店員との日常的な交流、また、地域に向けての事業所行事への参加の案内、事業所発行の新聞などの回覧など、活発な取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営責任者・管理者・その他全職員で、自己評価を実施している。課題を明確にし、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、参加委員と活発な意見交換を行っている。地域とのかかわりや災害時の対策支援の要請など、運営に関わる具体的な意見交換の結果、グループホーム事業への理解が地域に浸透するなど、成果が現れてきており、今後も更に期待が持てる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併により行政区分が変更される中で、行政担当者と関係を築き、現状の課題などの相談を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「たより」で、事業所内での生活を定期的に報告している。また、利用者個人については、必要に応じて家族に知らせるとともに、金銭管理や職員の異動についての報告を行っている。家族の希望に応じて、介護記録などの閲覧ができる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口を明確にし、利用開始時に説明を行っている。窓口の変更については、事業所内に書面を掲示して知らせている。家族の面会時など、日常よりコミュニケーションを図っており、運営やサービスに対して意見を聞き取る体制を確立している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は実施しておらず、通常の入・退職時については、職員側に事前に周知し、新旧職員で利用者の情報を共有するように努め、サービスの質の低下を防止している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加し、その内容の資料などを配布したり閲覧することにより、伝達をしている。内部においては、勉強会を開催し、研鑽に努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護保険事業所と、必要時に情報提供などを行っているが、日常的に交流を行うまでには至っていない。	○	今後は、介護保険事業所や行政等と協働して、定期的に職員研修や相互に事業所を訪問するなどの機会を設け、事業所間の意識を高めるとともに、サービス提供場面にてノウハウを活用することが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望時には、事業所への見学対応や、職員による利用者宅への事前訪問を行い、馴染みの関係を作りながら、サービスの利用開始となるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の自尊心を尊重しながら、一方的な立場で介護を行うのではなく、擬似家族的な立場に立っての援助や、関係作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や散歩など、希望に沿って可能な限り対応している。利用者と共に畑で栽培する作物を考えたり、外出行事の行き先を検討するなど、利用者の思いや希望を取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を反映するとともに、職員が各々の視点から意見を出し合い、プランを立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直し、評価を行っている。利用者の状態に即して、必要時には再度アセスメントを行い、新たな計画の立案をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人は、グループホーム事業を単独で運営しており、事業所の事業の範囲の中で、機能性を発揮し日常生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を中心として、診療の支援を行っている。利用者や家族の希望により、他の医療機関を自由に選択することが可能であり、医療機関までの送迎などの支援を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として、重度化への対応についての考え方を明確にしておき、利用についての相談時や利用開始時に、利用者や家族に説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導時には、特に配慮して声かけを行っている。また、個人情報の取り扱いには、規程を設け、家族などの同意の下で取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての細かな日課は定めておらず、利用者の意向を優先した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接する畑で栽培している作物を、有効利用した献立を利用者と職員で考えるなど、食事への楽しみを得る工夫を、作物栽培を通して実施している。食事の準備や片付けなどは、利用者の身体機能に合わせて支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上を目安として、利用者の気分や天候を考慮した入浴支援をしている。清拭やシャワー浴・足浴など、状況に合わせた清潔保持の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個人の得意分野を、更に支援するように取り組んでいる。カラオケや楽器演奏など、気分や行事に合わせて事業所内で活動するほかに、近郊への外出・外食の機会を設定し、利用者の生活が単調にならないように工夫している。利用者の生活歴などの情報は、家族や以前本人が利用していた介護サービス事業所などへ照会を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園への散歩や、図書館などの公共施設への外出等の対応をしている。敷地内の畑の作物の世話や、隣接するコンビニエンスストアなどへは、職員が引率するなどし、その都度対応を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、昼間は常に開錠し、開放的である。夜間施錠時については、家族等の来訪には、インターホンにより対応が可能である。玄関は開放的であり、大きな玄関フード内は、利用者の憩いの場となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災規程を整備しており、消防署立会いの中で、防災訓練を定期的の実施している。また、緊急通報システムを整備している。救急救命講習には、年一度をめぐりに職員が受講し、技術や対応の確認を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の量や水分摂取量、排泄回数などを記録しており、記録を目安にして随時対応している。栄養状況については、献立を時おり栄養士の有資格者に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然採光を取り入れた共用のスペースは広く、随所に確保している。バルコニーや玄関フード、畳の空間は、利便性を高め工夫していると同時に、2階フロアには地域住民から寄贈された地域の風景画を展示してあり、利用者や来訪者を和ませる空間としても活用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やテーブルなどの一般的な品々をはじめ、マッサージ器や金庫など、利用者が在宅生活時に愛用していた品々を持ち込んでおり、利用者は大きく生活環境を変えることなく生活している。		

※  は、重点項目。